

学部等名	医療保健学部リハビリテーション学科（理学療法学・作業療法学・言語聴覚学 専攻）
------	---

1. 教育目的・使命の明確化

学部等がどのような人材を育てたいのか、その方向性が明確かどうかを確認します。

1-1. 当該学部等の教育理念・目的が大学全体の方針と整合しているか記載してください。

理学療法学専攻：東京工科大学の基本理念である技術の発展と持続可能な社会に貢献する人材を育成する方針にあわせて、理学療法学専攻では多様な文化を理解するために必要な国際的な教養を身に付け、実学に基づく専門能力、および論理的な思考力を高め、さらに社会へ還元するために必要な高いコミュニケーション能力を備えた社会貢献のできる人材を育てることを理学療法学専攻の教育理念に掲げています。

作業療法学専攻：東京工科大学の基本理念である技術の発展と持続可能な社会に貢献する人材を育成する方針に基づき、作業療法学専攻では、人々の生活や作業を取り巻く多様な社会・文化を理解する国際的な教養を基盤に、実学に基づく専門性と論理的思考力を高め、対象者や他職種と協働し社会に貢献できる作業療法士の育成を教育理念としています。

言語聴覚学専攻：本専攻の教育理念は、「話す」「聴く」「食べる」という人の生活の根幹を支える専門職として、高度な知識と技術に加え、使命感と倫理観を備えた言語聴覚士を育成することであり、健康的・社会的に自らの人権を自らの力のみでは擁護しにくい方々の立場を理解し、その生活や思いを想像し、その方が大切にしていることを推し測ることができる人間性を涵養することを重視しています。科学的・論理的思考力を基盤に、人への深い理解と想像力をもち、多職種と協働しながら最適な支援を主体的に実践できる人材の育成を目指しており、大学の基本理念に一致しています。

1-2. 社会的ニーズや地域との関係性を踏まえた教育の方向性を記載してください。

理学療法学専攻：少子高齢化に伴う医療、保健、福祉領域のサービス低下や社会保障課題の解決に取り組むため、問題解決思考を養う演習、ならびに急性期病院から地域医療まで網羅する幅広い実習経験を通して、実学に基づく専門知識と問題解決能力を備えた理学療法士を育成しています。

作業療法学専攻：我が国及び世界における多様化する生活課題に伴う医療、保健、福祉、地域社会における支援ニーズに対応するため、作業や生活に着目した課題発見・解決力を養う演習、ならびに医療機関から地域・在宅までを網羅する幅広い実習経験を通して、実学に基づく専門知識と地域と協働する実践力を備えた作業療法士を育成しています。

言語聴覚学専攻：超高齢社会の進展に伴い、障害の重度化や病態の複雑化が進む中、放課後等デイサービスや特別支援学校・特別支援学級など、教育・福祉分野において言語聴覚士に求められる社会的役割は一層高まっており、これらの専門職としての社会的ニーズに応えるため、本専攻では、従来の専門教育に加えて地域言語聴覚療法学の充実を図るとともに、教育・福祉領域における臨床実習を重視しています。これにより、実学に基づいた専門的知識と実践力を身につけ、地域と

の連携を通して多様な課題に対応できる言語聴覚士の育成を目指しています。

1-3. 教育目標が学生や教職員に周知されているか記載してください。

リハビリテーション学科：学科・専攻内 Web サイト、および学生便覧に育成する人材像を掲載しており、また新入生ガイダンス等を通じて学生や教職員に教育目標を周知しています。また、学外の臨床実習を実施する場合にも、連携する施設指導者、および参加する学生に教育目標が共有されており、学内外での理解促進に努めています。

自己評価

- ア. 課題を改善した又は新しい取り組みを実施した
- イ. 前年どおりである又は特に問題はない
- ウ. 改善・修正が必要な点がある。

イ

上記、「ア」を選択した場合、改善した課題又は新しい取り組みを記載してください。

上記、「ウ」を選択した場合、改善、修正案を記載してください。

2. 内部質保証体制の整備

3つのポリシーを起点とする教育の質を自ら点検・改善する仕組みがあるかを確認します。

2-1. 学部内における質保証の組織体制（委員会、責任者など）を記載してください。

リハビリテーション学科では、3つのポリシーの質保証を目的に、学部内に教育課程委員会や各学科・専攻ごとの委員会が設置され、学部長や学科長が責任者となって運営しています。委員会は学科・専攻からの教員で構成され、ポリシーの策定・運用・評価を行い、学修成果や教育内容の改善に継続的に取り組んでいます。

2-2. 内部質保証のための自己点検・評価の実施状況とその結果の共有について記載してください。

リハビリテーション学科では、ディプロマ・カリキュラム・アドミSSIONの3つのポリシーに基づき、大学・学部で作成された教育・研究の質保証のため定期的な自己点検・評価を実施しています。評価結果は教員間で共有され、教育課程や学修成果の改善に活用されています。

2-3. IR (Institutional Research) によるデータ収集・分析の活用を記載してください。

理学療法専攻：IR センターと連携し、学生の学修成果や履修状況、授業評価等のデータを収集・分析しています。これにより、教育課程の改善や学修支援の充実を図るとともに、自己点検・評価の根拠資料として活用し、教育の質保証に資する体制を整えています。

作業療法学専攻：教育・研究の質保証のため、IRによるデータ収集・分析を積極的に活用しています。学生の学修成果や教育課程の評価結果を定量的に把握し、授業評価においては教員間で公表するとともに教育内容や方法の改善に反映することで、専攻の教育の質向上を図っています。

言語聴覚学専攻：未だ卒業生が1期生だけの本専攻では、在籍生データのみの活用段階ですが、入試形態と退学者数との関係把握や、GPA推移からの躓き要因（学年別、科目別）の分析、さらに、身体的・精神的不調が成績に及ぼす影響の検討、授業評価を基にした授業改善計画の専攻横断的検討を行い、教育の質保証とエビデンスに基づいた教育改善を図っています。

2-4. 学生・学外関係者の意見・要望をくみ上げる仕組みと分析結果を教育研究の向上に生かすに努力について記載してください。

理学療法学専攻：授業アンケートやガイダンス、地域連携活動を通じて学生・学外関係者の意見や要望を収集しています。これらの声はIRによるデータ分析と併せて質保証委員会で検討され、教育内容や研究活動の改善に反映されています。

作業療法学専攻：作業療法学専攻では、学生や臨床現場をはじめとする学外関係者の意見・要望を、授業や研修会後のアンケートや面談等を通じて継続的に収集し、作業療法教育の特性を踏まえて教育課程や学修成果の評価方法に反映しています。

言語聴覚学専攻：学生からは授業アンケートや専攻、学務課に寄せられる意見等を収集し、学生の保護者からは保護者面談を通じて得たすべての声を専攻内で都度共有しています。また、臨床教育を行って下さる臨床実習指導者からのご意見・ご指摘は、臨床実習毎の紙面、及び、実習施設担当教員を通じての収集をしております。学生・保護者・実習指導者から寄せられた声については、教育内容に直接反映できるものと、難しいものがあります。その場合も含め、理由を明確にしたうえで、学生・保護者・臨床実習指導者へ丁寧に説明します。その過程で、今後どのような改善が可能かを共に考えるコミュニケーションを大切にしています。

自己評価

ア. 課題を改善した又は新しい取り組みを実施した イ. 前年どおりである又は特に問題はない ウ. 改善・修正が必要な点がある。	イ
--	---

上記、「ア」を選択した場合、改善した課題又は新しい取り組みを記載してください。

上記、「ウ」を選択した場合、改善、修正案を記載してください。

3. 教育課程の編成・実施

学生が体系的に学べるように教育課程が設計・運用されているかを確認します。

3-1. 3つのポリシーの策定状況と周知方法について記載してください。

リハビリテーション学科では、各専攻のディプロマ・カリキュラム・アドミSSIONの3つのポリシーは、学科・専攻内 Web サイト、および学生便覧に育成する人材像を掲載し、新入生ガイダンス等を通じて学生や教職員に周知しています。これらのポリシーは、シラバスなどを通じた教育課程の設計や学修成果の評価、入学者選抜の方針に反映され、教育の質保証と継続的改善に活用されています。

3-2. カリキュラム・ポリシー（CP）に沿った体系的な教育課程を編成し、実施しているか記載してください。

理学療法学専攻：カリキュラムポリシーに基づき、基礎教育科目、専門基礎科目、専門科目を段階的かつ体系的に学べる教育課程を編成しています。講義・演習・実習を組み合わせた実践的な学修を通じて、主体的な課題解決能力を育成し、社会で活躍できる医療技術者の育成を目指しています。

作業療法学専攻：カリキュラムポリシーに基づき、基礎教育科目、専門基礎科目、専門科目を段階的・体系的に学べる教育課程を編成しています。講義・演習・実習を通じて、作業や生活に着目した課題解決力を育成し、社会で活躍できる作業療法士の養成を目指しています。

言語聴覚学専攻：カリキュラムポリシーに基づき、基礎教育科目、専門基礎科目、専門科目を段階的かつ体系的に学べる教育課程を編成し、講義・演習・実習を効果的に組み合わせることにより、知識・態度と技術の融合を図っています。学生の主体的・能動的な学修を促進し、課題発見力や論理的思考力、実践的な問題解決能力を養成するとともに、社会で求められる幅広い視野と高い専門性を身に付けた言語聴覚士の育成を目指しています。

3-3. ディプロマ・ポリシー（DP）を踏まえた単位認定基準、進級基準などの学修成果の評価方法を適切に定め、周知し、厳格に適用しているか記載してください。

各専攻のディプロマ・ポリシーに基づき、学修成果の評価方法として明確な単位認定基準と進級基準を定めています。これらは学生便覧やシラバス等を用いて科目担当責任者より周知され、成績評価および卒業要件として厳格に適用されています。学修成果の可視化と教育の質保証に資する体制が整備されています。

3-4. 教授方法の工夫（アクティブラーニングなど）と効果的な実施について記載してください。

理学療法学専攻：アクティブラーニングや PBL（課題解決型学習）、ケーススタディを積極的に導入し、学生の主体的な学びを促進しています。これにより、論理的思考力や問題解決能力、チームでの協働意識が高まり、社会に貢献できる人材育成に寄与しています。

作業療法学専攻：グループワークおよびポートフォリオや Problem based learning、OSCEなどを効果的に組み入れるとともに、希望者における補講なども積極的に取り入れて、学生の受動的な学びから主体的かつ自律的な学びへの進化を促す教育を実施しています。

言語聴覚学専攻：専門基礎科目ではペアワークやグループディスカッション、ロールプレイなどを取り入れ学生の気づきを促し、専門科目では反転授業を組み込んだ科目や、事例検討を含めた（対象者への）言語聴覚療法を実施する科目（学内演習）などを配置し、主体的・能動的な学修

への参加を図っています。

3-5. 3つのポリシーを踏まえた学修成果の把握と評価方法について記載してください。

各専攻の3つのポリシーに基づき、講義・演習・実習を通じて学修成果を多面的に評価しています。各科目のシラバスに明記された評価方法に従い、定期試験、授業内確認テスト、レポート、発表等を組み合わせて厳格に判定しています。また、臨床実習では複数教員による審査を行い、総合的な能力を公正に評価しています。

自己評価

- ア. 課題を改善した又は新しい取り組みを実施した
- イ. 前年どおりである又は特に問題はない
- ウ. 改善・修正が必要な点がある。

イ

上記、「ア」を選択した場合、改善した課題又は新しい取り組みを記載してください。

上記、「ウ」を選択した場合、改善、修正案を記載してください。

4. 教員の体制と能力開発

教員が教育・研究の質を高めるための体制と取り組みがあるかを確認します。

4-1. 教員の採用・昇格基準の明確化について記載してください。

研究業績、教育能力、大学運営への貢献実績などを基準とした各専攻における明確な教員採用・昇格規程を整備しています。これらの基準は学内の基準に基づき、リハビリテーション学科各専攻で規定され、学部で共有され運用しています。昇格審査は人事委員会等の審議を経て、公正かつ厳正に実施されています。

4-2. FD (Faculty Development) 活動の実施状況について記載してください。

大学全体のFD方針に基づき、授業改善や教育の質向上を目的としたFD活動を継続的に実施しています。FD委員会を中心に、各学部・学環から選出された教員が参画し、授業評価、教育課題の共有、改善策の検討を行っています。活動内容は学内で共有され、教育改善に活用されています。

4-3. 教員の教育・研究活動の成果と評価について記載してください。

理学療法学専攻：教員の教育・研究活動に対し、授業評価アンケートや研究業績の自己点検・評価を通じて成果を把握しています。これらの結果はFD活動や人事評価に反映され、教育の質向

上や研究力強化に活用されています。また、外部評価や学内委員会による審査も行われ、透明性と公正性が確保されています。

作業療法学専攻：教員の教育・研究活動に対し、授業評価や研究業績の点検・評価を通じて把握しています。これらの結果は専攻内における FD 活動や人事評価に反映されます。これらは、大学における外部評価や学内委員会による審査を通して行われています。

言語聴覚学専攻：教員の教育・研究活動に対し、授業評価や研究業績の点検・評価を通じて把握しています。これらの結果は専攻内における FD 活動や人事評価に反映されます。これらは、大学における外部評価や学内委員会による審査を通して行われています。

自己評価

- ア. 課題を改善した又は新しい取り組みを実施した
 イ. 前年どおりである又は特に問題はない
 ウ. 改善・修正が必要な点がある。

イ

上記、「ア」を選択した場合、改善した課題又は新しい取り組みを記載してください。

上記、「ウ」を選択した場合、改善、修正案を記載してください。

5. 独自基準（学部の特徴）

学部が持つ独自の強みや個性、特色を確認します。

5-1. 学部が個性・特色として重視している領域について記載してください。

理学療法学専攻：現場教育の多様性を教育の柱としています。具体的には、国立研究所付属病院、大学病院、総合病院、回復期病院、療育施設、介護老人保健施設、無床診療所（クリニック）、義肢装具センター、競技スポーツ大会会場でのメディカルチェック帯同があり、実学に基づく専門能力が身に付けられるように努めています。

作業療法学専攻：ICT の利用と臨床現場との相互作用及び最先端の知見の活用を重視しています。具体的には iPad アプリや動画などの補助教材を利用した学び、学生の希望に合わせた通学しやすい臨床実習配置、大学と教育施設との提携施設の設置や連携研修会の実施、ルックスケアや自動車運転などの選択授業により特色を掲げています。

言語聴覚学専攻：健康的・社会的に自らの人権を自らの力のみでは擁護しにくい方々の立場を理解し、その生活や思いを想像し、その方が大切にしていることを推し測ることができる人間性を涵養することを重視しています。学内授業では、対象者（患者・家族を含む）を招聘し、障害受容の各ステージにおける心の声を直接伺う機会を設けています。これにより、学習の進度に応じた思考活動を展開しています。さらに、臨床実習指導者による講義・講演を実施し、アクティブラ

ーニングを通じて「患者の不利益とならない臨床実習の在り方」について、思考する機会を臨床実習参加前の学生に提供しています。

5-2. 他大学との違いを示す取り組みがあれば記載してください。

理学療法学専攻：東京工科大学片柳研究所ヒューマンムーブメントセンターと連携して、他学科の教員・学生と理学療法学専攻の教員・学生が共同研究を実施しました。今回はコンピュータサイエンス学部と医療保健学部間の取り組みですが、今後は他学部・学科と人的交流を図り、学生が学際的研究活動に触れる環境を整備します。

作業療法学専攻：臨床実習施設が本専攻の臨床実習性を優先的に引き受ける協力施設制度や連携を深めるための研修、学生の国際学会への帯同や学生教育環境の充実のための環境整備を行いました。

自己評価

- ア. 課題を改善した又は新しい取り組みを実施した
- イ. 前年どおりである又は特に問題はない
- ウ. 改善・修正が必要な点がある。

ア

(理学療法学および作業療法学専攻)

上記、「ア」を選択した場合、改善した課題又は新しい取り組みを記載してください。

理学療法学専攻：東京工科大学片柳研究所ヒューマンムーブメントセンターと連携して、他学科の教員・学生と理学療法学専攻の教員・学生間で共同研究を実施しました。

作業療法学専攻：本学規約に基づく臨床協力施設が6施設となりました。10月期に臨床実習施設とのZoomによる研修会を実施いたしました。さらに、ドライビングシミュレーターや3Dプリンターの導入を行いました。

上記、「ウ」を選択した場合、改善、修正案を記載してください。